

# 私も若槻の住民です



若槻の皆さん、長野朝日放送(abn)アナウンサーの蔵田玲子(くらた れいこ)と申します。

## 若槻って素晴らしい

私が若槻に住むようになって、およそ10年になります。若槻の風景や街並みなどが出身地の仙台市(宮城県)の郊外に似ていて、すっかり気に入ってしまいました。“田舎の良さ”に魅かれたのです。

長野朝日放送が新卒の社員を採用した初年度に入社しました。高校の卒業を控え、さて大学はと考えたとき、信州大学経済学部には推薦入学の制度があるのを知り、無事、合格しました。信州好きの親が勧めてくれたことも信大を選んだ理由の一つでした。

学生時代はご多分に漏れずアルバイトをやりました。

松本のケーブル局のレポーターに精を出しました。教員試験も通っていたのですが、就職に放送局を選んだのは、アルバイトの延長線上にあった一言言ったら、言い過ぎかもしれませんね。アナウンサーに配属され、今に至っているのですが、アナウンサーの仕事について少し話をさせてください。



## 仕事。そして仕事

現在、abnステーション(月～金・午後6時台)を受け持っています。毎日のニュースを主体に皆さんに番組をお届けしています。テレビの出演が夕方、放送時間も1時間足らずなものですから「毎日、3～4時間も会社へ行けばいいんでしょう」と、おっしゃる方が多く、それはとんでもない大誤解!です。

アナウンサーは人が書いた原稿を読むだけではありません。むしろ、自分で取材に行き、自分で書き、表現する、と言った方が正解です。朝から夜まで仕事、仕事です。日曜も土曜も県下を駆けずり回っております。「蔵田も頑張っている」と、皆さんに励ましていただきたいのですが。

## 知恵を出し素敵なまちへ

さて、地元若槻に話を戻しましょう。地区の皆さんは親切で、私の健康を気遣って採りたての野菜を頂くこともしばしば。生真面目な方が多く、細かいことにこだわりがちなケースもあるような気がします。

私のように県外から来て暮らす人が本当に増えていますね。昔から住んでいる人に比べると、やはり皆さんと接する場が少なく、行動範囲も狭い。でも、こうした人たちも地域のことを知りたがっています。

若槻の歴史的なこと、大きく変わった現在の姿、産業のことなどを手軽に知るチャンスを増やしたら喜ばれると思います。

住んだ初めのころと比べると量販店やレストランが増え便利になりました。交通量も多くなり、休日の大通りやサンロードは渋滞が目立ちます。都市化から“田舎風”の暮らしやすさをどう守るか、これからのポイントでしょう。 (構成 広報委員長)